

主な意見・指導事項	対応(案)
<p>① 防災・減災の観点から、高知港の防波堤や防潮堤が非常に有効である。特に、防波堤の機能は早期復旧という面でも、静穏度の確保が緊急物資の搬入に関し非常に重要。</p>	<p>➤ 津波が来襲し、防波堤を越流しても防波堤が倒壊せず、津波流入量が抑制でき、被災後も港内静穏度が確保できるよう、第1線防波堤を粘り強い構造とする事業に着手しています。</p>
<p>② 高知県は、地震時の地盤沈降量が非常に大きく、防護ラインの必要な高さや液状化対策について十分な検討が必要。</p>	<p>➤ 津波シミュレーションは、地殻変動による沈降量を考慮して実施しています。また、第1ラインについては、別途地震時の地盤沈降量を求め、地震後においても港内の静穏度を確保するのに必要な高さに事前対策するものとしています。</p> <p>➤ 第2ライン、第3ラインについては、今後、整備計画の検討を進める中で、必要な嵩上げ高さや液状化対策について、具体的な検討を行っていきます。</p>
<p>③ 浸水を防いだり、浸水した場合でも早期復旧を目指す場合、防波堤や防潮堤を粘り強い構造とすることで、堤内地を守るということが重要。</p>	<p>➤ 第1ラインのみならず、第2ライン、第3ラインについても、整備計画を検討する中で、粘り強い構造とすることも視野に入れつつ、具体的な検討を行っていく予定です。</p>
<p>④ 減災の指標として、流速の減少や浸水面積および浸水深の減少についても検討して欲しい。</p>	<p>➤ L2津波に対する減災の指標として、避難行動が困難となる浸水深30cm以上の浸水面積の減少や浸水開始時刻の遅延効果について、とりまとめを行いました。</p>
<p>⑤ 一般には、狭義の「防災」と「減災」を加えて、広義の「防災」ということもあるため、本検討での「防災」と「減災」という言葉の定義について、「防災」については災害をゼロにすることであり、「減災」は災害を減らす意味である、という注釈をつけた方が良い。</p>	<p>➤ 第1回の資料4(高知港における地震津波防護の基本的な考え方)に「防災」と「減災」の言葉の定義について注釈を記載しました。</p>
<p>⑥ 段階的に事業の投資効果が、地域の防災力として積み上がるところが、三重防護の最大のメリットであると思われる。</p>	<p>➤ 今後、整備計画を検討する中で、段階的な事業の投資効果についても考慮した整備手順の検討を進める方針です。</p>